

財団法人小原白梅育英基金の活動

21世紀を担う有為な人材の育成を通じて、 無償の社会貢献を果たしています

当金庫では、向学心に燃える学生に奨学金を援助し、「世の為、人の為」に役立つという高い志と使命感に溢れ、豊かで活力ある日本の国づくりと、広く国際社会の発展に貢献できる有為な人材を一人でも多く育成するため、昭和61年2月に財団法人小原白梅育英基金を設立し、その活動を全面的にバックアップしており、平成20年3月にも3億円の寄付を行う等、これまでに合計62億円の寄付を実施してきました。

その結果、同育英基金は、基本財産が70億円に達するとともに、卒業生を含めた奨学生数も1,300名を突破し、既に1,000名を超える卒業生が社会の第一線で活躍する等、我が国有数の育英奨学基金として高く評価されています。

また、この財団法人小原白梅育英基金では、「奨学金給付事業」と「奨学生指導事業」を事業の両輪としており、奨学生に対する奨学金の給付に加えて、「奨学生の集い」や「卒業奨学生送別の集い」の開催、機関誌「白梅」の発行等を通じて、奨学生の幅広い指導や人間形成にも力を注いでいます。

当金庫としては、高い志と使命感、そして自主性と実行力に溢れた有為な人材を一人でも多く育成し、無償の社会貢献、国際貢献を果たすことが、公共的金融機関である信用金庫の使命であるとの認識に立って、今後についても、財団法人小原白梅育英基金の設立母体として、その活動を積極的に支援してまいります。



「奨学生の集い」で挨拶をする真壁名誉会長（基金理事長）



「奨学生合格証交付式」で挨拶をする真壁名誉会長



黒岩祐治氏による講演



卒業奨学生と基金関係者による記念撮影